

地震から身を守ろう

片岡弘大准教授が講演

弘実高

弘前実業高校（佐藤 義光校長）は12日、弘前大学大学院理工学研「防く」を演題に防災教

震災を踏まえ災害への対処法を
紹介した片岡准教授



室が開かれた。全校生徒約960人は地震や津波の仕組みを知り、災害から身を守る方法に理解を深めた。

同校は避難訓練を年3回行い安全指導をし

ている。今回は東日本大震災を受け、地震災害に備えようと防災教室を開いた。

片岡准教授は「災害とは自然現象と人間社会が絡み合って起き、

被害は相対的だ」と強調。災害への心構えとして「自助、公助、共助」を挙げ「安全な場所に住み、整理整頓するなどがをしないような家にする。自分のできることをやる個人の努力は必要だ」と述べた。

津軽平野についても震度6弱の地震が起きると予測されていることから、「揺れを感じにくい地域だが、地震がないわけではない」と警告し「揺れに対処できるようにしよう」と呼び掛けた。

情報処理科3年の小田桐茜さんは「これから新生活を始める際にはアパートの構造など気を付けるようにしたい」と参考にした。

（稲村千穂）

※この記事は、陸奥新報社提供です。
無断転載はできません。
【問い合わせ先】弘前大学理工学部
hcp@st.hirosaki-u.ac.jp